

顔面①ソウハク(蒼白)をもじった「(1)顔面総白」の創作四字熟語が登場したのは2009年だった。新型インフルエンザが日本に「上陸」して流行し、マスクが売り切れに。白いマスク顔が街にあふれて外国人観光客を驚かせた▼初夏からの流行に、「マスクは冬の(2)風物詩ではなくなった」という声も聞こえてきた。保育所が休養したり、修学旅行の中止が生徒を泣かせたり、ピリピリして身構えた記憶がよみがえる、韓国のウイルス禍である▼中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルスの感染者は増えて、死者は16人を数える。社会不安は広がりに、②ヒヤツカ(百貨)店の売り上げや遊園地の入場客も落ち込んでいるという。③朴槿恵(パククネ)大統領は訪米を④エンキ(延期)した▼⑤サツコン(昨今)のニュースでよく目にしたのは、エボラ出血熱のひもを結んだようなウイルスだった。今度のは丸い。周りの⑥トツキ(突起)が太陽のコロナに似ていることから名がついた。あれやこれや、次から次へと、ミクロの病原体に人類が攻められている図といえる▼⑦疫病(えきびょう)の流行は、ささいな⑧チョウコウ(兆候)から始まるのが常のようだ。小説だが、(3)カミュの名作「ペスト」は、医師が階段で1匹の死んだネズミにつまずくところから始まる。それが(4)燎原の火の前兆だった。今回、韓国では、最初の患者への対応の誤りが広がりを招いたと批判されている▼ウイルスはいつどこへ飛び火しても不思議はなく、⑨他人事(ひとごと)でいられる国はあるまい。(5)水際の備えを万全にして、万一のときも素早く消し止めたい。隣国の早い⑩シユウソク(終息)を願いながら。

〔2015年6月16日「天声人語」〕

問一 ①～⑩のカタカナ部は漢字に直し、傍線部は読みを答えなさい。

問二 傍線部(1)はどんな状態を表現したのか、35字程度で答えよう。

(新インフルエンザ感染防止の白いマスクを付けた人が街にあふれている状態。)

問三 傍線部(2)の意味を答え、四季それぞれの具体例を1つずつ答えよう。

・意味(季節感を感じさせ、接する人に何らかの感動を催させるもの。)

・〔答例〕春(入学) 夏(花火) 秋(さんま) 冬(雪)

問四 傍線部(3)の作品を、次から選び記号に○をつけよう。

ア 『城』 イ 『嘔吐』 ウ 『居酒屋』 ⑤ 『異邦人』

問五 傍線部(4)は、「ペスト」がどのような状態になることか。

(野原に燃え広がる火のように、防ぎようがなく流行する状態になること。)

問六 傍線部(5)の具体的な場所を3字以内で、2か所答えよう。

〔答例〕(港) (空港)

問七 各段落の内容を200字～300字の一文でまとめよう。

〔答例〕一 段落…(2009年、日本で新型インフルエンザが流行した。)

〔答例〕二 段落…(現在、韓国でウイルスによる災難が広がっている。)

〔答例〕三 段落…(韓国でのMARSによる死者は16人を数える。)

〔答例〕四 段落…(エボラ・コロナと病原体に人類が攻められている。)

〔答例〕五 段落…(韓国では最初の患者への対応の誤りが広がりを招いた。)

〔答例〕六 段落…(水際の備えを万全にし、万一の感染にも素早く対処したい。)